

自己評価プロフィール

評価要素		得点	評価段階				
			A	B	C	D	E
資 質	1 教 育 愛						
	2 統 率 力						
	3 誠 実						
	4 責 任 感						
	5 公 正						
	6 寛 容・協 力						
	7 品 位						
合 計 点							
職 務 実 績	1 園 経 営 一 般						
	2 組 織・編 制						
	3 保 育 の 計 画・実 施						
	4 施 員 の 指 導・監 督						
	5 施 設・設 備 の 管 理						
	6 事 務 の 掌 握						
	7 対 外 活 動						
合 計 点							
総 得 点							

明らかにすることができる(評価項目の詳細は、「日本保育学会第十三回大会発表論文抄録」を参照していただきたい)。

**結果の利用** これは、園長を格付けするのが目的ではなく、前にも述べたごとく、これによって、園長自身が自己の長所や短所を知り、自己反省をするために作られたものであるから、これを手がかかりとして、自己評価をおこない、反省と修養のための資料として十分活用してほしい。

(大会発表論文抄録80-82頁)

保育者の適性に関する予備的研究

お茶の水女子大学 吉田三和子

津守 真

この研究は、どのような幼稚園教師が、子どもに対してもっともよい影響を与えるか、ということを知るために、教師の態度を調査する尺度の作成を試みたものである。私どもは、教師と子どもとの健全な人間関係の中で、子どもの健全なパーソナリティを発達させることができるかと考える。教師が子どもの生活をすべてを支配するようなどころでは、教師のエネルギーだけが生かされて、子どものエネルギーが生かされない。子どものエネルギーが適当な通路を与えられ、子どもの経験や考えを生かすことのできるような教師は、子どもの発達にとってよい影響を与える教師であるということができよう。このような考えのもとにまず、教師がどのような行動をしているか、子どもとどのような接触をしているか、などを明らかにしようとして、保育態度を反映するような質問紙を作成した。質問紙を作る予備的段階として、保育室における実際の保育場面において異なった態度をとる三人の教師の行動を観察し、ありのままの記録をとり、それを統一的・支配的の観点より分析した。ここで統一的とは、教師の意図と子どもの意図との両者が生かされるように指導する態度であり、支配的とは教師の意図のみが支配するような態度である。その結果をもとにして、保育態度調査用紙の原案を作り、観察の時の三名の被験者に施行したら、質問紙の方が個人差が少なく現われたが、実際行動と質問紙に現われたものとは、ほぼ同一傾向を示していた。次にこの質問紙を二百十三名の女子学生に施行し二十の態度項目の項目分析をし、5%以下の危険率で有意でないもの三項目を除き、十七項目を残した。この保育態度調査用紙の結果は(1)、一般教養課程の学生より、保育専攻の学生の方が統合点が高い、と言える。(2)、保育専攻の学生については、一年生より二年生の方が平均点が高いが、学年差のtの値は1・二七で有意ではな

い。(3)、実習点とのバイシリアル相関係数は、二校についてそれぞれ、 $0.00$ と $0.32$ である。

次に M T A I (Minnesota Teacher's Attitude Inventories——教師の態度調査用紙)の翻訳をし、その原案を作った。M T A I は教師の態度を民主的な態度と権威的な態度とに分けようと試みたものである。進歩的教育においては、教師は民主的な態度を要求され、民主的な態度で子どもの考えを生かすことのできるような教師が望ましいとされる。この為この尺度は民主的方法による進歩的教育をよいと考える学校においてのみ使用しうる、とことわってある。方法は二百八十五名の女子学生に施行し、百五十項目の項目分析をし、十%以下の危険率で有意でないもの三十項目を除き、百二十項目を残した。この M T A I の結果は、

(1)、ある程度の学校差はであるが、一般教養課程の学生と保育専攻の学生との間の差は認められない。(2)、保育専攻の学生についてみると、一年生より二年生の方が平均点が高く、その学年差のものは一・九六で五%以下の危険率で有意である。(3)、実習点とのバイシリアル相関係数は二校についてそれぞれ、 $0.10$ と $0.34$ である。この時に用いた実習点は、各学校の先生方の評価によってつけられたものである。

保育態度調査用紙と M T A I との相互関連をみてみると、総合的に言えば、低いが相関はある。そして、保育専攻の学生についての方がこの二つの質問紙の相関は高く現われている。

次に参考までに、西本脩氏の保育者の社会的評価の尺度とそれぞれの質問紙との相関を求めてみた。M T A I の場合はきわめて低いが、相関はある。保育態度調査用紙は、相関は認められない。

結論は、(1)、保育専攻の学生については、保育態度調査用紙と M

T A I とは相互に関連があつて、保育者の態度の個人差を弁別することができるといえる。

(2)、両質問紙とも、学年の高い方が得点が高く、保育態度はある程度教育によって向上させることができる。

ただし、これらの質問紙による態度調査が、どれだけ、実際の保育態度と一致するものであるか、については、なお今後の検討を要するものである。  
(大会発表論文抄録 82—83頁)

## 保育者の求める生活と教養

宝仙学園短期大学 岡田正章

東京都内所在の公私立幼稚園・保育所に勤務している保育者三十七名に質問紙を配布、生活の実態とそれに対する見解及び必要としている教養について記入を求めた。その結果から考えられる問題を二、三指摘すれば、

まず第一に保育者の約六〇%は結婚後もできるだけ長く自分の仕事を続けようと思つている。しかし、結婚後家庭と職場を両立させることについては、時間的な余裕のないことを理由として多くの人々は半ば絶望的である。毎日午後六時以降になつてやつと勤務の終る人が全体の約二〇%もいることは早速に改善すべき一つの問題である。このためには、施設内では勤務時間の合理化を、対社会的には保育者の勤務時間に対する正しい認識による協力を一層促進する必要がある。

次に、現在の職場にずっと勤務したいと考えている人は約四五%